

G-3 小学校低・高学年の色彩嗜好調査について
岐阜大教育 中野刀子

目的 文明の高度化に伴い、日常生活における色彩の役割は増大するものと考えられる、近年学校教育の場において家庭科の被服分野の中で、色彩・デザインに関する問題が重要視される傾向にあるか、これも文明の進展に起因する色彩の役割の増大化を端的に示す現象である。このような現状の中で児童の色彩嗜好はどのような実状を示し、またどのような要因が影響を及ぼしているのかを明らかにする必要があると考える、今回は小学生を対象として、要因分析を含めて本調査を行ったので報告する。

方法 無作為抽出により小学校2年・6年の児童を地域別に625名調査した、方法としては色紙を貼付した資料を午前9時—午後3時までの間で、北側の明るく窓側におき、無直方向から試料を見て説明を加えながら調査用紙に記入させる。

結果 児童における色彩嗜好の要因に対象の問題として、性別、年齢、地域の3つの要因をとりあげ、これらの3要因がどのように児童の色彩嗜好に影響を及ぼすかについて検討したところ、年齢、性別、地域の順に与える影響が大であった。